

世界遺産登録に向けて

佐渡金銀山絵巻をひもとく(7)

金銀を含む鉱石は石英質なのでとても硬く、金穿大工かなほりが使う鑽まめつ(採鉱用のノミ)は、2日ほどで磨滅してしまいます。

鑽は焼き直せばまた使えるので、切っ先の鈍くなった鑽を鑽通たがねない穿子ほりこが集め、坑口の鍛冶小屋に運び込みます。この穿子たちは、2〜3人ひと組が一昼夜交代で鑽を運びました。

鍛冶小屋には「ほと」という火床があり、鍛冶が2人と鞆差穿子1人がついて作業を行い、坑内で使う鉄の道具をすべてこしらえていました。

鞆には狸の皮が用いられていましたが、本土から持ち込まれたといわれています。

寛政3年(1791)になると、鞆は「両縁鞆りょうふちかちか」という、吹き出し口が2つの物に改良され、2か所の「ほと」に同時に送風できるよう、改良されています。

鑽の打ち直しは、初めに短くなった鑽の先をじかに割り、「割刃」という厚さ1分3mm・縦5分(15mm)ほどの鋼を挟み、ネバ土で包

―鑽と鍛冶小屋―

みます。それを「ほと」に入れて焼き、鉋で鍛えて先を錐きりのようにします。

鑽は何度も再生を繰り返して、短くなった鑽は「足鑽たしたかね」といって、新しい鉄をつなげ打ち直します。もつと短くなった鑽は10日ほど溜めておき、2本を1本にする「合鑽あわせかね」に打ち直します。

文政年間の記録を見ると、鍛冶は29人、1人1か月御給米が3斗で御給銭が448文でした。



「両縁鞆が用いられる前の鍛冶小屋の様子
(佐渡銀山往時之稼行絵巻)から

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136

《イベント案内》

1 歴史に埋もれた古道を歩く

佐渡金銀山周辺の古道と史跡巡り

Aコース：鶴子銀山跡～笠取峠～上相川集落跡

日時：5月27日(日) 午前8時30分～正午

参加料：500円

申込み：中川 進(ファックスまたはメール)

FAX：57-4371

E-mail：s.nakagawa@air.ocn.ne.jp

主催：佐渡金銀山古道を守る会

Bコース：金山道遊抗～高任神社～上相川集落跡

集合場所：佐渡金山第3駐車場

定員：各コース30名

2 アルプスホルン演奏会

妙見山千竜桜・山野草とアルプスホルンのコラボ

日時：5月20日(日) 午前10時30分～11時30分

場所：妙見山キャンプ場跡(雨天時は交流センター・白雲台)

参加料：無料 申込みは不要です。

主催：特定非営利活動法人(NPO) さど自然保護観察サポート隊

3 佐渡の歴史・芸能と自然風景の演奏会

佐渡が誇る歴史・芸能と自然映像を背景にした音楽会とのコラボ

日時：5月20日(日) 午後6時30分～

場所：史跡佐渡奉行所跡お役所前(相川広間町)

入場料：1,000円

申込み：萩野正作、中川 進(ファックスまたはメール)

FAX：57-4500または57-4371

E-mail：kyoritu@sirius.ocn.ne.jpまたはs.nakagawa@air.ocn.ne.jp

